

事業名 ^{さんいん}山陰・夢みなと博覧会建設事業

- ①仮設施設の建設及び解体・撤去に関して、産業廃棄物の排出を削減し、環境に配慮した事業
②高齢者・身障者にやさしい博覧会場建設を推進した事業

受賞機関 鳥取県博覧会推進局

事業実施期間 平成8年3月1日～平成10年1月31日

事業費 3,962百万円

技術等の特徴と評価

博覧会終了後の施設を資源として有効活用するために、当初設計にあたり、工法と資材について十分な検討を行った。その結果、ほとんどの施設を木造にするとともに、移築可能な工法などとした。建物については延べ面積の65%が再利用、その他については、ほぼ全量リサイクルが図られた。また、障害者、高齢者に対しても安全・安心に博覧会を楽しむことができた点が評価される。

事業の概要と効果

①山陰・夢みなと博覧会の建設事業は、博覧会という短期間のイベントであるため、多くの仮設施設を建設し、終了後は直ちにその仮設施設を解体・撤去するという特殊なものである。

従って、建設する時点から産業廃棄物の発生を抑制し、無駄なものを造らないことはもちろん、造った施設は再利用・リサイクルを進めていくことが、資源の有効利用の面から当然のことであり、同時に事業費の低減につながっていくものである。ここでは、産業廃棄物の発生を削減するため次のように対応した。

・削減

舗装について、一般駐車場は碎石舗装（118,445



全景

m²)に防塵処理を施し、会場内はソイルセメント舗装(パビリオン前、16,299m²)、真砂土舗装(市民交流広場、3,328m²)、砂舗装(交流の海、3,499m²)を採用し、撤去不要とした。

・再利用

リース物品での対応が不可能な仮設建物のほとんどを木造として、再利用を積極的に進めた。

建物では仮設建物の延べ面積19,305m²(103棟)のうち、再利用した延べ面積は、12,635m²(37棟)で約65%が様々な形で利用した。特に、仮設建物で最大の面積を占めた一般パビリオン(延べ面積8,944m²)は、倉庫等への再利用を想定して、大断面集成材(米松)の24mスパンの門型フレームを桁行方向に5.4m間隔で接続し、天井高6mのスペースを基本ユニットとし、各出展面積に合わせて規模を自在に対応できるシステムとした。

その結果、全ての施設を再建築し、大きな効果があった。

その他として、樹木、ファニチャー、アスファルト、コンクリートなどをほぼ全量リサイクルや再利用した。

②山陰・夢みなと博覧会では、高齢者や障害者等で行動上の制限を受ける人が、快適に会場内で活動できるようやさしい会場づくりを行った。

事業の効果として、建設廃棄物量を大幅に削減するとともに、公共団体ほか関係機関へ施設を譲渡することにより、博覧会施設の有効活用を図ることができた。また、パビリオン出展者及び営業参加者に対しては、車椅子使用者の入館を想定した設計を行うよう指導し、博覧会場全体としてバリア・フリー環境のモデル事業を行うことができた。

受賞賛助会員 美保土建㈱



「交流の海」の前